

## 教員の受賞・研究成果・採択

本学公式 Web サイトに掲載された記事を中心にご紹介します。
< 2019年4月～2019年10月>

<p><b>法学部 教授</b>  <b>工藤 裕子</b>  <b>CEEE Gov Days 2019にて Best Paper Award</b></p> <p>法学部教授 工藤裕子が、ハンガリーのブダペストで開催された Central and Eastern European eDem and eGov Days 2019にて Best Paper Award を受賞しました。</p>
--

【論文タイトル】
"Death of "Open Data"?: How Open Data has been realising and/or not realising Open Government"

<p><b>経済学部 教授</b>  <b>佐々木 創</b>  <b>「地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)」に採択</b></p>	<p>九州大学、中央大学、熊本大学、鹿児島大学、京都大学、東京海洋大学、東京農工大学、寒地土木研究所</p>
--	--

九州大学を代表機関に、中央大学、熊本大学、鹿児島大学、京都大学、東京海洋大学、東京農工大学、寒地土木研究所が参画して提案した「東南アジア海域における海洋プラスチック汚染研究の拠点形成」（対象国：タイ国）が、科学技術振興機構（JST）および国際協力機構（JICA）が共同で実施する「地球規模課題対応国際科学技術協力（SATREPS）」に採択されました。本学からは現在タイ・チュラロンコン大学にて在外研究中の経済学部教授 佐々木創が参加しています。海洋プラスチック汚染は、深刻な海洋環境問題として近年、G7等の国際的枠組みでもクローズアップされており、2050年には、海上を浮遊するプラスチックが海洋中の魚の存在量を上回るとも予測されています。東南アジアから投棄される廃プラスチックは、世界の全投棄量の約30％を占めており、ASEAN 地域における廃プラスチックの削減計画や、それを支ええる調査・研究体制の整備が求められています。本研究では、海洋プラスチック研究で世界をリードする我が国と、経済成長に伴う深刻な都市ごみ問題を抱えるタイがタッグを組み、海洋プラスチック汚染に関する研究拠点をタイに構築し、ASEAN 諸国のモデルとなる海洋プラスチックごみ軽減のための行動計画をタイ政府に提案することを目指します。具体的には、まずタイの一地域において、プラスチックごみの発生量の解析や現存量の調査、環境影響評価、そして将来予測を集中的に行い、この結果を踏まえた行動計画を策定します。さらに地域の政策決定者や多様なステークホルダーと共に、プラスチックごみ発生量の削減を実現させ、最終的に行動計画をタイ政府に提言します。

<p><b>経済学部 准教授</b>  <b>中川 康弘</b>  <b>留学生教育学会の第10回優秀論文賞を受賞</b></p>	<p>論文題目</p> <p>留学生は学内でどのように自己存在を示そうとしているかー「まなざし」と対峙する学部留学生の語りからー</p> <p>『留学生教育』第23号</p> <p>著者 中川康弘 所属 中央大学 経済学部</p>
---	---

**講評の概要**  
周囲からの「まなざし」をどのように捉え、それにどのように対処しているかを、留学生自身の語りを通して明らかにした本論文は、日本の大学におけるこれからの留学生教育のあり方を考える上で、意義は大きいと言えます。論旨が明快で新規性も高く、今後の研究が期待できる優れた論文として、学会誌編集委員会全員一致で、本論文を優秀論文賞に選出しました。

<p><b>商学部 教授</b>  <b>渡辺 岳夫</b>  <b>「日本管理会計学会 2019年度年次全国大会」において、学会賞（論文賞）を受賞</b></p> <p>商学部長・教授 渡辺岳夫が、2019年8月28日に専修大学生田キャンパスで開催された「日本管理会計学会2019年度年次全国大会」において、学会賞(論文賞)を受賞しました。</p>
---

【論文タイトル】
アメリカ経営システムの運用の継続企業と中止企業の比較ー組織成員に対する心理的な影響メカニズムの多母集団同時分析ー

<p><b>商学部 教授</b>  <b>高見澤 秀幸</b>  <b>「日本ファイナンス学会第7回丸淳子研究奨励賞」を受賞</b></p> <p>2019年6月22日(土)23日(日)に慶應義塾大学三田キャンパスにて開催された「日本ファイナンス学会第27回大会」において、商学部教授 高見澤秀幸が「日本ファイナンス学会第7回丸淳子研究奨励賞」を受賞しました。「丸淳子研究奨励賞」は、長年にわたり日本ファイナンス学会の活動を支援されてきた丸淳子氏からの申し出を受けて、日本のファイナンス研究の振興を目的として2013年度に設置されたものです。</p>
---

<p><b>理工学部 教授</b>  <b>福井 彰雅</b>  <b>イモリの再生能力の謎に迫る研究成果をプレスリリース</b></p>	<p>理工学部教授(生命科学科)福井彰雅らによる研究グループが、研究成果をプレスリリースしました。</p> <p>本研究は、非常に高い再生能力を持つことで知られるイモリの中でも、実験室での飼育や繁殖が容易なイベリアトゲイモリの有用性に着目し、日本人の研究者でコンソーシアムを作り、飼育システムの確立、近交系の確立、高効率のゲノム編集法の開発など研究基盤の構築を推進したものです。この成果により、イモリの高い器官再生能力の解明をはじめとする様々な研究に不可欠なツールやヒントとなり、今後の再生医療研究を含む多様な分野への貢献が期待されます。</p>
---	---



<p><b>理工学部 教授</b>  <b>不破 春彦</b>  <b>欧州総合化学誌 VIP“Very Important Paper”として掲載</b></p>	<p>東北大学、高知大学、慶應義塾大学と連携</p>
--	----------------------------

理工学部教授(応用化学科)不破春彦が、東北大学、高知大学および慶應義塾大学と連携した共同研究の成果が、欧州総合化学誌 Chemistry - A European Journal に VIP “Very Important Paper”として掲載され、あわせてカパービクチャーに選ばれました。大環状ラクトン骨格をもつ化合物はマクロリドと呼ばれ、これまで感染症治療薬や抗悪性腫瘍薬として人類の健康の維持・増進に役立ってきました。イリオモテオリド・2aは、沖縄県西表島沿岸の海底砂泥に生息する渦鞭毛藻 Amphidinum 種 HYA024株の培養液から、高知大学のグループにより単離された新しいマクロリド天然物です。本天然物は数種の培養ヒトがん細胞に対し強力な細胞毒性を示すほか、担癌マウスの腫瘍縮小効果が報告されていました。本研究では、イリオモテオリド・2aの完全化学合成(全合成)を初めて達成するとともに、有機合成化学およびNMR 解析にもとづいて全立体構造を正しく決定することに成功しました。一方、全合成で取得した合成品が天然標品で見られた細胞毒性を再現しなかったことから、イリオモテオリド・2aの生物活性は再検討の必要があることを明らかにしました。本研究成果は、天然物の構造決定および生物活性の確認において、有機合成化学が果たす基礎的な意義を強調するものです。本論文は、二名の論文審査員がともに“very important”と評価したことから、VIP “Very Important Paper”として採択されました。VIP に選定されるのは投稿された全論文の上位5％未満です。本研究成果は、科学研究費助成事業(文部科学省)新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー」(平成23～27年度)、基盤研究 (C) および住友財団基礎科学研究助成の支援を受けて得られたものです。

<p><b>理工学部 教授</b>  <b>松本 浩二</b>  <b>日本冷凍空調学会 (JSRAE) に Asian Academic Award (アジア学術賞)を受賞</b></p> <p>理工学部教授(精密機械工学科)松本浩二が公益社団法人日本冷凍空調学会(JSRAE)、大韓設備工学会(SAREK)及び中国制冷学会(CAR)の合同委員会で「Asian Academic Award (アジア学術賞)」を受賞しました。</p>
--

【業績名】
Progressive study on Functional Ice and Ice Slurry (機能性氷 / 氷スラリーに関する先進的研究)

<p><b>理工学部 助教</b>  <b>浜田 百合</b>  <b>2019年日本感性工学会論文賞を受賞</b></p> <p>理工学部助教(経営システム工学科)浜田百合、同教授(経営システム工学科)庄司裕子、丸山達也(理工学研究科博士前期課程2017年度修了)らの論文が、2019年日本感性工学会論文賞を受賞しました。本賞は、創意があり学術的に高い価値を有すると認めたものに贈られるものです。</p>
---

【受賞論文】「多肢選択の場合の合意形成プロセスモデルの特徴」

【発表論文誌】日本感性工学会論文誌 2018年17巻3号 pp.357-364

<p><b>理工学部 教授</b>  <b>今堀 慎治</b>  <b>日本オペレーションズ・リサーチ学会「論文賞」を受賞</b></p> <p>理工学部教授(情報工学科)今堀慎治が、日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌 “Journal of the Operations Research Society of Japan” Vol.61 に発表した論文(東京海洋大学 橋本英樹氏、名古屋大学 胡艶楠氏、深津翔氏、柳浦睦憲氏と共著)「Efficient overlap detection and construction algorithms for the bitmap shape packing problem (ビットマップ図形配置問題に対する高速な重複検出手法および構築型解法)」で、日本オペレーションズ・リサーチ学会の第9回「論文賞」を受賞しました。「論文賞」とは、過去1年間に当該学会論文誌に掲載された論文のうち、特に優れたもの1編に贈られるものです。</p>
--

<p><b>理工学部 助教</b>  <b>白髪 丈晴</b>  <b>日本オペレーションズ・リサーチ学会「研究賞奨励賞」を受賞</b></p> <p>理工学部助教(情報工学科)白髪丈晴が、日本オペレーションズ・リサーチ学会の第9回「研究賞奨励賞」を受賞しました。研究賞奨励賞は、若手研究者個人を対象とする賞です。独創性と将来性に富み、OR の発展に寄与する研究業績を挙げている研究者であり、かつ、原則として満35歳以下の研究者に贈られます。</p>
---

<p><b>理工学部 教授</b>  <b>芳賀 正明</b>  <b>2019年度 錯体化学会から錯体化学会賞を受賞</b></p> <p>理工学部教授(応用化学科)芳賀正明が、2019年度錯体化学会から錯体化学会賞を受賞しました。この賞は、錯体化学会会員の中から、特に業績が優れ、錯体化学の発展に寄与したと認められる研究者に贈呈されるものです。</p>
--

【受賞タイトル】
表面錯体ナノ化学の機能創成

Surface coordination nanochemistry based on functional metal complexes

<p><b>総合政策学部 教授</b>  <b>小林 勉</b>  <b>日本計画行政学会第31回学術賞（論説賞）を受賞</b></p> <p>総合政策学部教授小林勉が、日本計画行政学会の第31回「学術賞（論説賞）」を受賞しました。論文のタイトルは「社会開発とスポーツ」（『計画行政』41巻第3号掲載）で、これまでの研究成果を集約して、「スポーツの力」を地域社会や国際開発のコンテクストから読み解き、その啓発性・先駆発展性・政策的貢献が総合的に優れていると評価されました。「学術賞（論説賞）」とは、過去1年間に当該学会論文誌に掲載された論文のうち、特に優れたもの1編に贈られるものです。</p>
---

<p><b>2019年9月17日</b>  <b>「外濠・日本橋川の水質浄化と玉川上水・分水網の保全再生」を小池百合子東京都知事に提言</b></p>	<p>提言を提出したのは、法政大学、東京理科大学、中央大学の3大学。江戸城外濠周辺にキャンパスを持つ3大学は、水質改善のための研究を行うと共に、近隣の高校や地元自治会等を含めて連携し、水辺の保存再生について多彩な研究・教育・社会活動を展開しています。中央大学からは、理工学部都市環境学科 教授 山田正、谷下雅義が出席し、山田教授は提言に関する補足説明を行いました。</p>
---	--

<p><b>国際経営学部 教授</b>  <b>中村 潤</b>  <b>人工知能学会で研究会優秀賞を受賞</b></p> <p>国際経営学部教授の中村潤が、人工知能学会で研究会優秀賞を受賞しました。この賞は、2018年度に人工知能学会研究会で発表された研究のうち、特に優秀なもの(上位5%以内)を選び表彰されるもので、第一著者の古宮望美さん(芝浦工業大学工学マネジメント研究科修士課程(投稿時))との共同での受賞となります。受賞した研究内容は、企業におけるブランドのポジショニング戦略の策定を支援するツール「ブランドマップ」の構築につなげるための検討であり、研究成果であるブランドマップの作成結果とその考察が評価されました。</p>
---

<p><b>国際経営学部 助教</b>  <b>ドゥマヤス アリャン デラロサ</b>  <b>国際学会「International GeographicalUnion(IGU) Urban Geography Commission Annual Meeting」で若手科学者賞を受賞</b></p> <p>国際経営学部助教のドゥマヤス アリャン デラロサが、2019年8月7日にルクセンブルクで開かれた国際学会「International Geographical Union(IGU) Urban Geography Commission Annual Meeting」で若手科学者賞を受賞しました。この賞は、若手科学者の研究を奨励し、学会への参加を支援するという目的で設けられ、その対象は博士課程在学中もしくは博士号取得5年以内となっています。2019年度はドゥマヤスを含む5名が受賞しました。受賞した研究では、フィリピンの各州の都市化と地方自治体財政（支出）を比較して、都市化と財政の関係を分析しました。その結果フィリピンでは、州の都市化率が高くなると、地方の支出が増加する傾向が分かりました。これにより、都市化率と地方の支出の関係から各州を分類し、政策提案をまとめました。</p>
---

<p><b>国際情報学部 教授</b>  <b>平野 晋</b>  <b>OECD（経済協力開発機構）のAI原則の起案に貢献</b></p> <p>国際情報学部長・教授 平野晋と、2020年に同学部就任予定の教授 須藤修(現 東京大学大学院情報学環 教授)は2016年からこれまで、両名が構成員である総務省「AI ネットワーク社会推進会議」や内閣府「人間中心の AI 社会原則検討会議」等を通じて、OECD（経済協力開発機構）等の国際機関に採用されることを目指した日本発 AI 諸原則・ガイドライン案を検討・公表し、かつ国際社会への周知活動を行ってきました。さらに両名は昨年から、日本を代表して、パリに本部のある OECD の「AI 専門家会合」（Artificial Intelligence expert group at the OECD: AIGO エイゴー又はエイ・アイ・ゴー）の構成員として、理事会勧告案の起案・検討作業に携わってきました。両名による国内外の諸活動が実を結び、日本の提案が活かされた AI 原則案が5月22日に OECD 理事会勧告として正式に採用されました。</p>
--

<p><b>研究開発機構 機構教授</b>  <b>石川 幹子</b>  <b>中央大学・四川大学合同チームが「世界遺産都市・都江堰・林盤保全設計最優秀賞」を受賞</b></p> <p>9月2～7日、双方の学生、大学院生が都江堰市で、都江堰市との協力のもとに、現地調査を踏まえた、「悠久の歴史に学ぶ、水・人間環境と都市農村ヴィジョン」に関する調査を行い、発表を行いました。提案は高く評価され、都江堰市より、優秀賞を贈呈されました。中国四川省は中国西南部に位置し、北は青海省、甘肅省、東は重慶、南は雲南省、西はチベット高原へ続き、人口8000万人を擁し、古くから様ざまの民族が交流する文化の拠点として栄えてきました。2008年5月12日、龍門山脈を震源とする「四川汶川(ぶんせん)大地震」が発生し、6万5千人の方々がなくなられ、世界遺産都市都江堰市(とこうえんじ)を始め、多くの都市が壊滅しました。石川機構教授は、被災直後より、復興ランドデザインの提案を行い、継続的な支援活動を展開してきました。</p>
---

<p><b>2019年9月17日</b>  <b>「外濠・日本橋川の水質浄化と玉川上水・分水網の保全再生」を小池百合子東京都知事に提言</b></p>	<p>この度提出した提言は三項目からなり、その要点は次の通りです。第一に玉川上水・外濠・日本橋川に多摩川からの河川水を導水することにより、水質浄化・水循環改善・防災水利確保・自然歴史文化の保全再生などの役割を果たすグリーンインフラとして位置づけること。第二に2020 東京大会のマラソンコースとなる外濠と沿川の再開発が進む日本橋川については、河川水を試験的に通水することで早急に水質改善を図ること。第三にこれら水系の水質改善・維持管理等の検討について、大学・研究機関・市民(団体)の知見を集約し、協働するための委員会等を設置すること。</p>
---	---